

# 第2回 天神川河川整備懇談会

## 現 地 調 査 資 料

平成 18 年 10 月 5 日

倉吉河川国道事務所

# 目 次

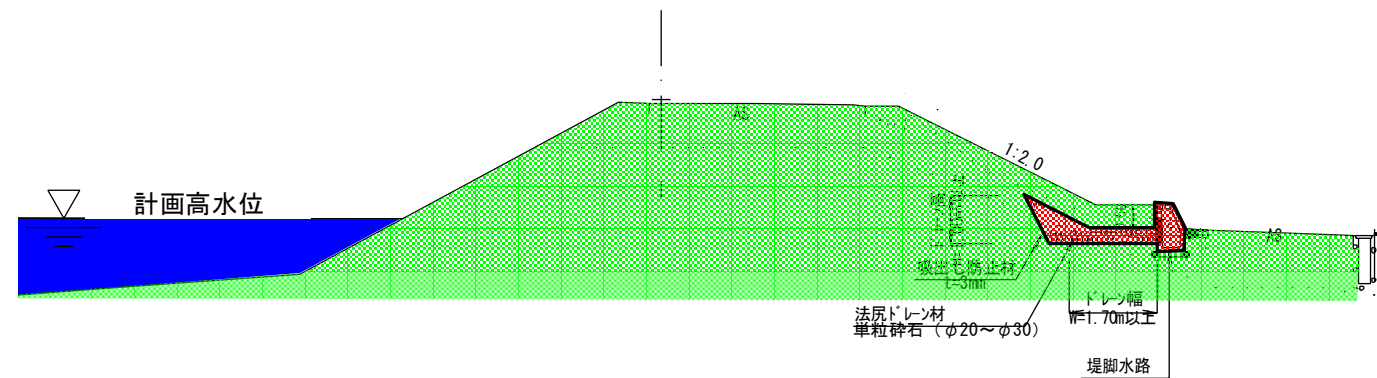
1. 調査地の概要	1
①堤防強化工事	1
②天神川河口	2
③小鴨川・国府川合流点	4
④小鴨川大鳥居箇所	5
⑤天神川本川・牧地区被災箇所	5
2. 流域の特徴等	6
①小鴨川の河岸段丘	6
②霞堤	7

## 1. 調査地の概要

### ①堤防強化工事

#### 1) ドレーン工法

#### 標準断面図

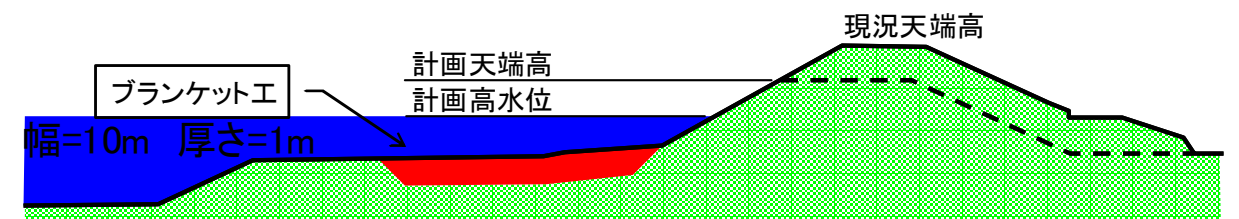


#### ドレーン工施工状況



#### 2) ブランケット工法

#### 標準断面図



#### ブランケット工施工状況

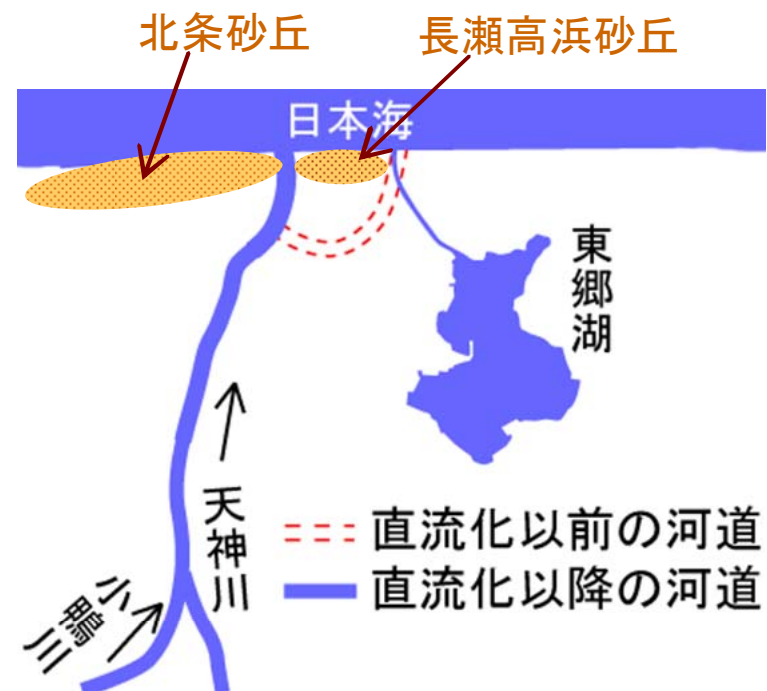




## ②天神川河口

### ○河口の直流化工事

天神川の河口は古い時代から旧北条町江北にある天神山のところで流れを東に変え、橋津で海に注いでいた。元文年間(1736～1741)に天神山から東方に続く岩盤を開削し、流路を直線状にして、堤防を高く堅固なものにする紀州流工法が採用された。



天神川河口部の直流化工事

### 河口の経年変化と砂州

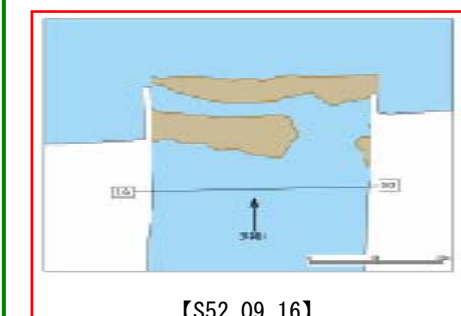
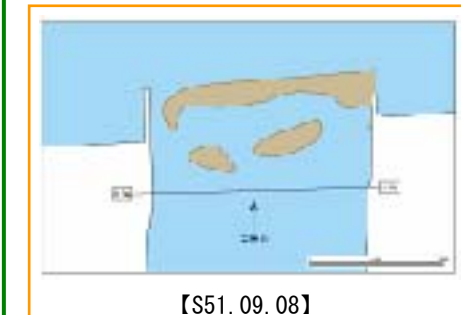
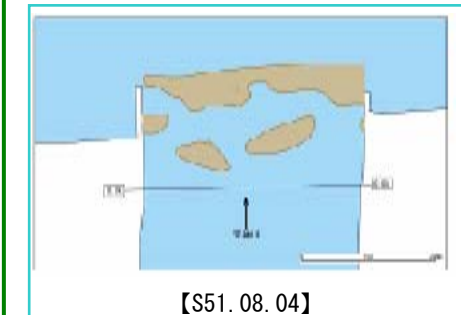
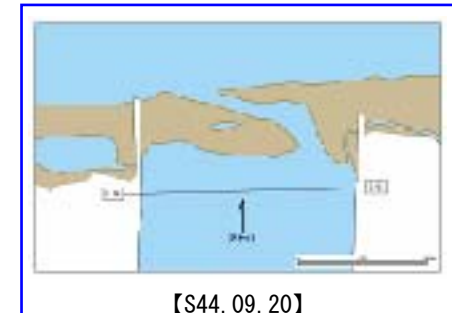
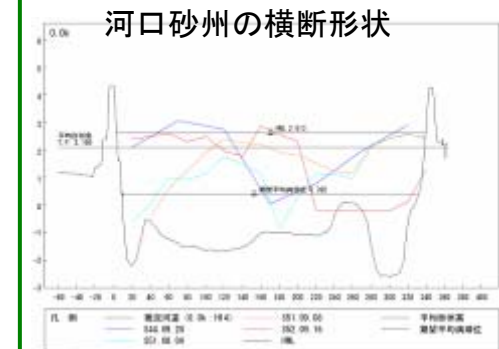
- ・閉塞は発生するが、小規模な掘削で対応可能であり、管理上問題は発生していない
- ・開口部は狭小
- ・砂州の堰上げによる湛水域
- ・(日本海側であり干満の潮位差は小さい)

感潮域への海水の侵入の影響は小さく、淡水が滞留しやすい

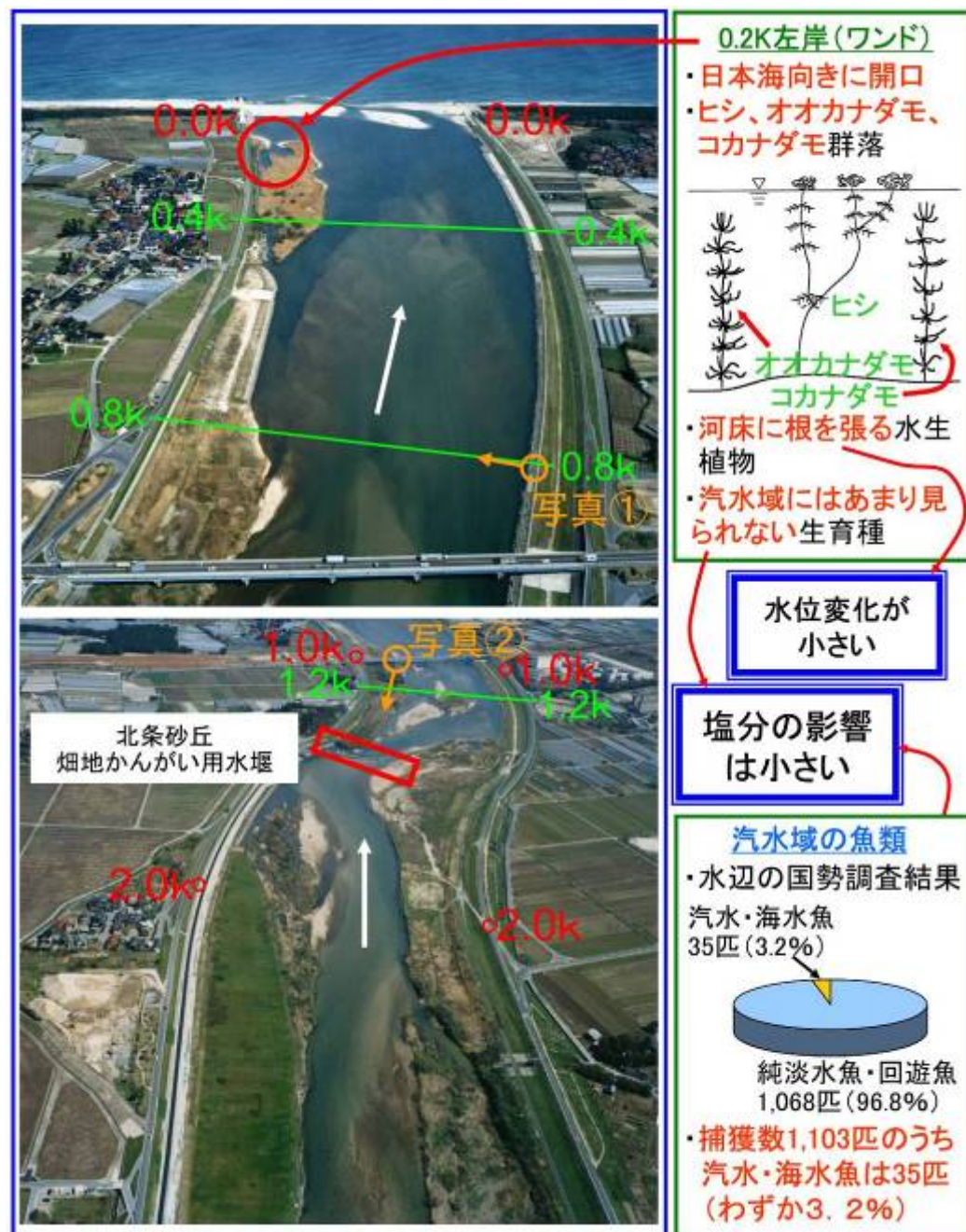
#### 河口部の経年変化



#### 河口砂州の横断形状







### 主な植生

左岸:オギ、セイタカアワダチソウなど

右岸はメヒシバ、人工裸地など

河口は砂浜。潮位差も小さく干潟は無い。水際部の主な植生は、ヨシ、オギ群落など洪水時の水位の増減に対応できる群落となっている。



①天神川0.8k右岸



②天神川1.0k左岸



天神川の現在の河口 (平成18年8月1日撮影)



天神川の河口 (平成17年6月9日撮影)



波浪等や流量減少の影響により河口閉塞が発生した場合には、砂州の小規模な掘削を行い対応。(平成16年8月20日の作業)



## ②小鴨川・国府川合流点

○みお筋の固定化や高水敷・河道内に繁茂した樹木により河川に近づきにくいことや、景観を阻害する要因となっていること、在来の自然環境の喪失が課題となっており、本来の自然環境を再生することを目的とし、小鴨川・国府川合流点において平成 17 年度、樹木伐採や堆積土砂掘削を実施している。

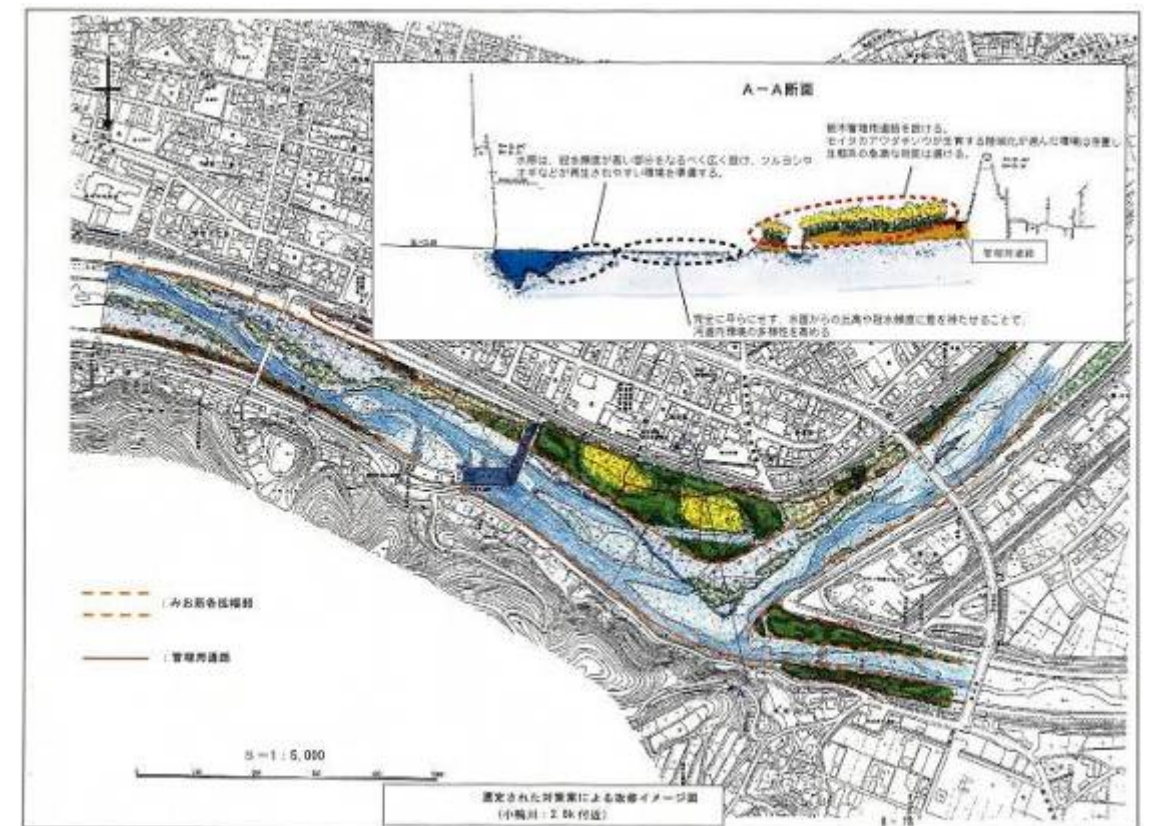
実施にあたっては学識者や地域の関係者の意見を反映させるため「小鴨川（下流）河川整備懇談会」を設立し、意見をお聴きしながら実施している。



小鴨川・国府川合流点付近 試験整備前（平成 17 年 8 月撮影）



小鴨川・国府川合流点付近 試験整備後（平成 18 年 8 月撮影）



試験整備のイメージ図



小鴨川・国府川合流点付近 試験整備前（平成 17 年 11 月撮影）



小鴨川・国府川合流点付近 試験整備後（平成 18 年 4 月撮影）

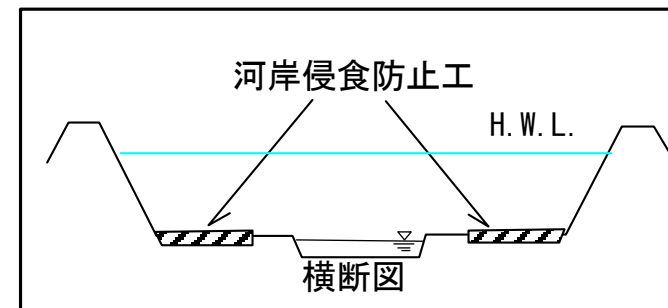


### ③小鴨川大鳥居箇所

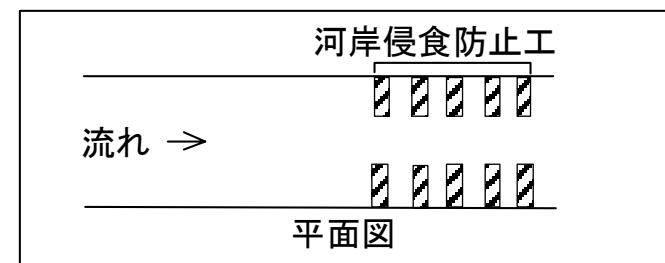
#### ○急流河川の河床洗掘対策

小鴨川は急流河川であり、護岸法先の洗掘に起因する護岸崩落が発生し、破堤による災害発生が懸念されている。

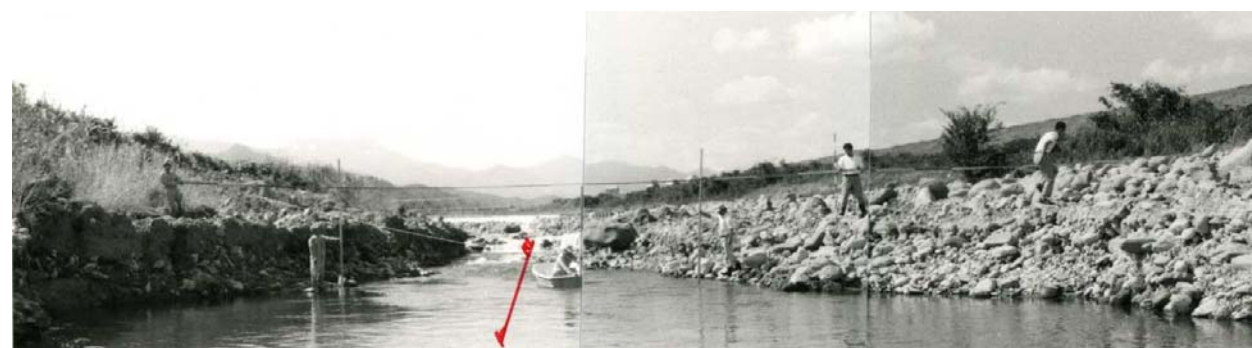
このため、大鳥居箇所では、河道内のみお筋を河道中央部に誘導し、洗掘が生じても侵食に柔軟に対応可能な河岸侵食防止工を施工している。



河岸侵食防止工の横断イメージ



河岸侵食防止工の平面イメージ



平成2年 被災状況



大鳥居箇所付近 (平成2年11月撮影)



大鳥居箇所付近 (平成18年8月撮影)



河岸侵食防止工施工箇所 位置



河岸侵食防止工施工状況

### ④天神川本川・牧地区被災箇所

#### ○平成10年の台風10号の被災状況

平成10年の台風10号では、天神川水系では大きな出水があり、天神川本川において護岸等の被災が発生している。



天神川本川 牧地区の平成10年台風10号出水による被災状況









## ②霞堤

霞堤は小鴨川、国府川に7箇所存在し、浸水域は主に田畑として利用されている。  
宅地は高位にあり浸水しない高さになっている。

